

年間第28主日  
マタイ 22・1-4

2014.10.12 9:30 ミサ  
イエズス会 柴田 潔神父

今日の福音のキーワードは「招き」です。せっかく婚宴に招かれたのに来なかったり、ふさわしい服装でなかったりして追い出される人たちが語られています。

では、私がどのように神様の「招き」に応えたのかご紹介します。

イエズス会志願書 1999年10月

秋の深まりとともに、こちら（富士市）では晴れた日に富士山がとても良く見えます。私の召し出しについても、だんだんと明確になってきました。大学を卒業してから社会人の12年間（1988～99年）、2つの祈りを大切に唱え続けてきました。1つは、イグナチオ教会の大学生を対象とした木曜会（1985～87年：指導司祭は、桜井神父・松本神父）で唱えた、アシジのフランシスコの平和を唱える祈り。もう一つは、南山教会のレジオ・マリエで唱えた、マリアの祈り（私は主のはしため、お言葉通りになりますように）。今思うと、2つの祈りが私の人生の中に静かにゆっくりと実現されて来たように思います。

司祭召命にあたっては、自分を投げ出し、自己奉獻する対象が、私にとってイエズス・キリストだとわかってきました。司祭への道を歩む中で、折に触れていただく、神様からの慰め、癒しの恵みが他の何ものにも代え難いという確信が生まれてきました。

大学生の頃（1987年）、松本神父様が「司祭の召命は、自分を犠牲にして我慢することではなくて（人手不足の解消のためではなく）、その道が柴田君にとって最も幸せと思えるかどうか大切です」と話して下さいました。その言葉を思い出しながら、自由な心で識別してイエズス会を志願させていただくことになりました。

何もわからないふつつか者ですが、これから祈り、祈られながら主の道を行って行きたいと思っています。また、こうしてイエズス会を志願させていただく恵みを与えて下さった神様に感謝します。

志願書を書いてから、15年が経ちました。神様は、確かに招いて下さいました。

「私たちは、神様にどのように招かれたのか?」、「どう応えて来たのか?」、  
「これからどのように応えて行くのか?」、考える1週間にしていきましょう。  
そして、喜びをもって応えて行けるよう願って、ミサを続けましょう。